

序論

I. 神の四つの召し

1. 救いへの召し — マタイ28:19-20、マルコ16:16

救いへの召し

聖化への召し

奉仕への召し

苦難への召し

II. 救いへの召し

イエスを信じ、悔い改め、罪の赦しのためにバプテスマを受ける

ローマ3:23; ローマ6:23; ローマ1:20

救われるための神の召しに対する個人的な応答

III. 聖化への召し

イエスのように聖く純粋な生き方をするために取り分けられる — Iコリント6:9-11

聖化=洗われ、義とされ、役に立つ者とされること — IIテモテ2:21

聖化における聖霊の役割

IV. 奉仕への召し

神の親切への応答として神に仕える — 使徒2:43-44; ローマ12:6-8

奉仕は救いを得るためではなく、愛によって動機づけられる

奉仕は教会を建て上げ、キリストの愛を表す

V. 苦難への召し

キリストと共に苦しむことは、クリスチャン生活の一部である — IIテサロニケ1:5

苦難は奉仕や聖化と同等の価値がある — IIテモテ2:11-12

信仰をもって受け入れた苦難は祝福をもたらす

VI. すべての召しに共通する特徴

1. すべての召しは神から来る

2. それぞれの召しは選択を迫る：祝福か呪いか

3. それぞれの召しは緊急であり、今すぐ答えなければならない

VII. 個人的な適用

今夜、あなたはどの召しを聞いていますか？

救いへの召しに対する応答

聖化への召しに対する応答

奉仕への召しに対する応答

苦難への召しに対する応答